

2019
ハンドブック
南海

HAND BOOK NANKAI 2019

お客さまとともに

南海グループ

 NANKAI

南海電気鉄道株式会社

NANKAI ELECTRIC RAILWAY CO.,LTD.

企業理念ほか

当社は企業理念とそれに基づいたコーポレートシンボルのもと、鉄道事業を軸とした総合生活企業として、人々の生活をトータルに応援する広

範な事業を通じ、社会の発展とともに、広く社会に貢献する企業を目指しています。

企業理念(1993年4月1日制定)

南海は英知と活力で未来をひらきます

【社会への貢献】

明日を創造する総合生活企業として、社会の信頼にこたえ、その発展に貢献します。

【未来への挑戦】

たくましい行動力と創意をもって、新しい時代のニーズに挑戦します。

【お客さま第一】

快適な生活と豊かな文化を追求し、お客さまに最良のサービスを提供します。

【活力ある職場】

一人ひとりの知恵と個性をいかし、明るく活気あふれる職場をつくります。

南海人五則(1971年2月制定)

1. 仕事と取組み 現実の仕事から会社の将来を考えよ
2. 仕事に不平を言わない たとえ仕事に不満であっても その中で自らの充実をはかれ
3. 自分自身の計画を持って 計画を持てば 忍耐と工夫と正しい努力と希望が生まれる
4. 自信を持って 自信がないと 君たちの仕事に迫力も粘りも生まれない
5. 行動力を持って 摩擦をおそれるな そうでない君たちは消極的で卑屈になる

企業倫理規範(2001年9月12日制定)

1. 法令その他の社会的規範を遵守し、公正で健全な企業活動を行う。
2. 顧客、取引先、株主等を含む幅広い社会との、健全で良好な関係の維持に努める。
3. 地域社会に貢献する良き「企業市民」たることを目指す。
4. 企業や市民社会の秩序に脅威を与える反社会的勢力や団体とは断固として対決する。

コーポレートシンボル(1993年4月1日制定)

総合生活企業として、未来に向けて力強く羽ばたいていく姿勢を表現するため、ファインレッドとブライトオレンジの2色で構成した2つの翼を組み合わせています。

ファインレッドは、南の海に輝く太陽のような企業の情熱、ブライトオレンジは、おほかで明るいヒューマンな心を表しています。



お客さまとともに(2001年10月からグループ全体で実施中)

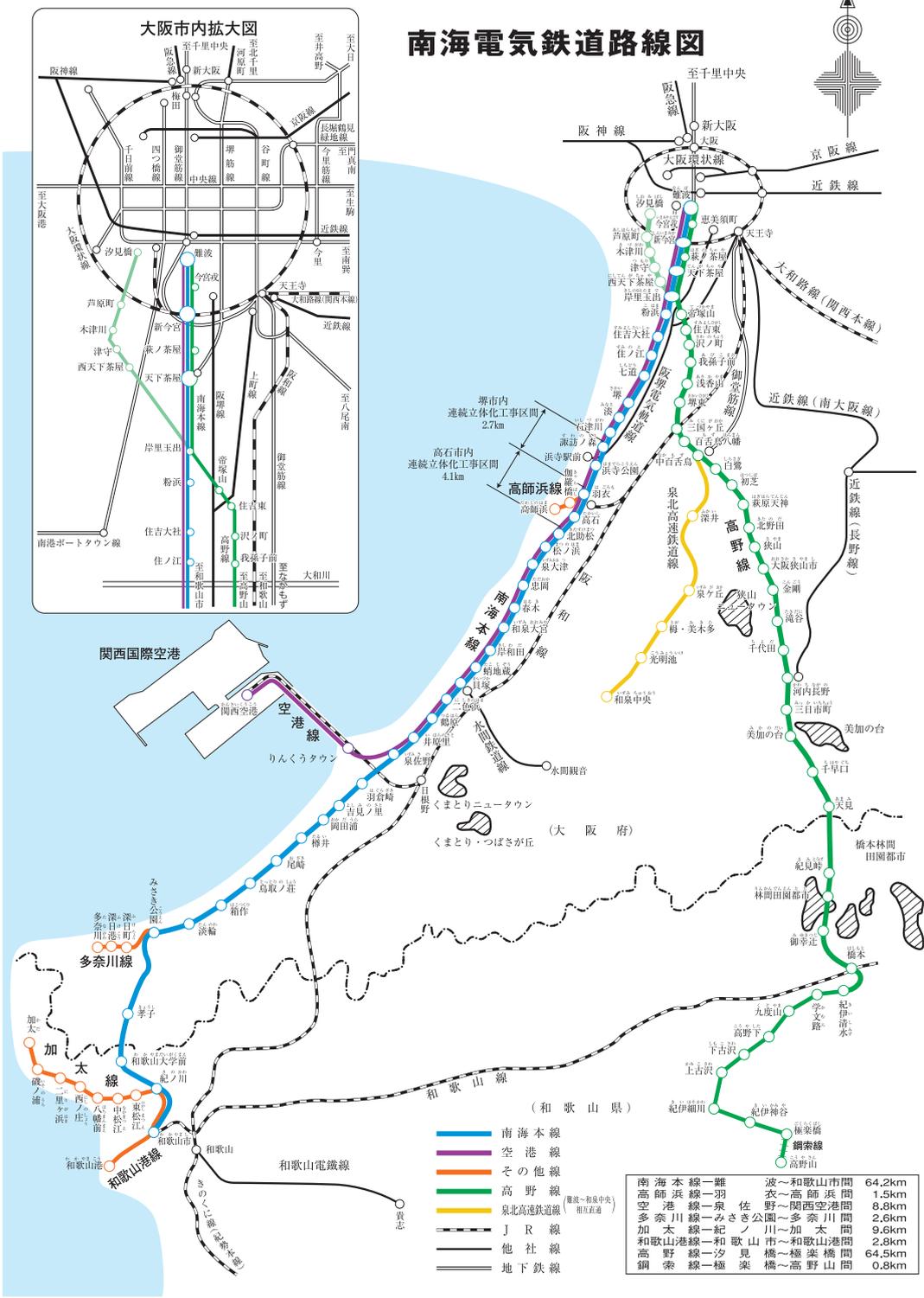
お客さまに引き続き当社グループをご利用いただくためには、お客さまのニーズに対応し、支持を得ることができる良質なサービス・商品を提供することが不可欠です。

社員一人ひとりがお客さまの目線に立った考え・行動をとること。それが「お客さまとともに」の取り組みです。

お客さまとともに

南海グループ

南海電気鉄道路線図





CONTENTS

南海グループのあらまし

南海グループの概要	4
南海グループ経営ビジョン2027	5
中期経営計画「共創136計画」	6
南海グループのあゆみ	10
連結財務諸表	12
連結経営成績の推移	14
CSR	15
グループ会社一覧	19
運輸セグメント	20
不動産セグメント	25
流通セグメント	30
レジャー・サービスセグメント	35
建設セグメント その他セグメント	39

南海電鉄のあらまし

個別財務諸表	43
役員と組織	44
株式・株主	46
従業員構成	48
人材の育成	49
福利厚生	50

鉄道事業

路線図	52
鉄道事業の現況と実績	54
駅施設	58
安全・バリアフリー施設など	68
駅別乗降人員	74
列車種別運転本数	76
運賃のあらまし	78
普通旅客運賃表	82
泉北高速鉄道	88
定期旅客運賃表	90
営業キロ程表	92
スルッとKANSAI・PiTaPa・ICOCA	96
保線	98
電気	100
信号通信	102
連続立体交差事業	104
鉄道車両	106

年譜ほか

年譜	114
主な沿線人口	127
民鉄16社比較	128

南海グループの あらかし

南海グループの概要

南海グループは、南海電鉄を中心に、連結子会社55社、持分法適用関連会社1社など、合計76社で構成される企業グループです。(2019年3月末現在)

各グループ会社は、運輸、不動産、流通、レジャー・サービス、建設、その他の6セグメントに分かれ、企業としての社会的責任を果たすとともに、事業の堅実な成長を成し遂げることを目指して、それぞれの分野で事業展開を行なっています。

■ 南海電鉄の概要

▶ 社名	南海電気鉄道株式会社 Nankai Electric Railway Co.,Ltd.
▶ 創業	1885<明治18>年12月27日
▶ 設立	1925<大正14>年3月26日 (設立登記:1925<大正14>年3月28日)
▶ 本店	大阪市中央区難波五丁目1番60号
▶ 本社事務所	〒556-8503 (個別番号) 大阪市浪速区敷津東二丁目1番41号 ☎. 06・6644・7121 (総務部) Fax.06・6632・8437 URL http://www.nankai.co.jp/
▶ 東京支社	〒104-0061 東京都中央区銀座五丁目15番1号 南海東京ビル8階 ☎. 03・3541・5477 Fax.03・3541・5478
▶ 和歌山支社	〒640-8203 和歌山市東蔵前丁3番地17 南海和歌山市駅ビル7階 ☎. 073・433・1285 Fax.073・431・3573
▶ 資本金	729億8,365万円

■ グループ経営方針

当社グループの普遍的なテーマを「グループ経営方針」として位置づけます。

- 1 安全・安心の徹底**
鉄道をはじめとしたすべての事業において安全・安心を徹底します
- 2 環境重視**
「地球環境保全」を使命として認識、事業において環境に配慮します
- 3 コンプライアンスの徹底**
法令遵守、自らの社会的責任を認識、公正で健全な企業活動を行います
- 4 顧客志向の追求**
地域に密着した企業として、お客さま目線での行動を徹底します

南海グループ経営ビジョン2027(2018~2027年度)

持続的な成長に向けて長い時間軸で「ありたき姿」を定め、その達成に向けて各種の施策にぶれることなく取り組むため、当社グループの10年後のありたき姿として「南海グループ経営ビジョン2027」を策定しました。

■ 10年後のありたき姿

満足と感動の提供を通じて、
選ばれる沿線、選ばれる企業グループとなる

■ 10年間の方向性

なにわ筋線開業に向け、沿線を磨く10年間

- グループの総力を挙げて沿線価値向上に注力
- 「なんば」「インバウンド」をビジネスチャンスとして活用し、沿線価値向上を加速
- アライアンス(提携)を積極的に活用し、事業展開をスピードアップ

■ 事業戦略

1. 選ばれる沿線づくり

- ①良質で親しまれる交通サービスの提供
1.安全・安心で、強靱な交通ネットワーク
2.海外評価No.1の交通グループ
3.お客さま満足度の向上
- ②沿線の玄関口・なんばのまちづくり
「グレーターなんば」を創造
- ③沿線活性化策を総動員
10年後の人口動態を
転出超過から転入超過に逆転

2. 不動産事業の深化・拡大

- ①収益物件の拡充とフロービジネスへの進出
「総合デベロッパー」への脱却
 - ②物流施設高度化の完了
(北大阪・東大阪流通センター)
- 不動産事業を鉄道と並ぶ柱に育成
(営業利益の過半に)

相乗効果

グループ経営基盤の整備

- ①事業選別の徹底
- ②ITを積極的に活用する企業グループ
- ③人材戦略
- ④財務戦略

■ 数値目標(連結ベース)

ビジョンの最終年度にあたる2027年度の数値目標は以下のとおりです。

営業利益(※)	450億円
有利子負債残高/EBITDA倍率	6倍程度

※営業利益+受取配当金

中期経営計画 「共創136計画」(2018~2020年度)

南海グループでは、この3年間で、すべての関係先・ステークホルダーと「共に創っていく3年間」と位置づけ、中期経営計画「共創136計画」に取り組んでいます。本計画は、「南海グループ経営ビジョン2027」の達成に向けた最初の3年間の取組みを示すものであり、同ビジョン達成の「基盤整備期」に「将来の成長のための布石を打つ」ための計画となります。

基本方針1 安全・安心で良質な交通サービスの提供

設備投資額 / 390億円

輸送の安全性・安定度向上と安全文化の一層の醸成のため、地震や風水害に対する施設の安全性と運転保安度の着実な向上と、ホームや踏切の安全性向上に努めます。また、「選ばれる沿線づくり」のため、南海線7100系(24両)、高野線6000系(30両)、ケーブルカー(4両)を更新するほか、駅トイレの集中的・計画的な更新と、ストレスフリーな移動環境の整備を進めます。



ホームドア(難波駅)

極楽橋駅トイレ

基本方針2 なんばのまちづくり

南海ターミナルビル近接ゾーン充実のため、「なんばスカイオ」の早期フル稼働、新規物件の取得、プロパティマネジメント業務の受注獲得、既存保有物件のリノベーションなどに取り組みます。また、「なんば～新今宮・新世界」南北軸の形成のため、なんばEKIKANプロジェクトを核とした周辺エリアの開発促進、新今宮駅前における外国人就労支援・交流施設「YOLO BASE」の開発に取り組みます。



YOLO BASE 外観(イメージ)

基本方針3 インバウンド旅客をはじめとする交流人口の拡大

インバウンド需要のさらなる獲得のため、企画乗車券のeチケット・QRコード化の推進や多言語案内の充実、高野山と百舌鳥・古市古墳群の「2つの世界遺産」を活かした観光需要の創出を図ります。また、「出かける価値のある場所」を沿線各所に創出します。



多言語対応お客さま案内用WEBサイト



新型高野山ケーブルカー運行開始セレモニー

基本方針4 駅を拠点としたまちづくり

地域特性に応じた駅の再整備・機能強化により、沿線の魅力向上・活性化を図ります。また、沿線自治体や関係各所との連携を深め、泉北をはじめとするニュータウンの再生・活性化に取り組みます。



和歌山市駅活性化計画(2020年3月全体竣工予定)

基本方針5 不動産事業の拡充

新規不動産取得枠(物流施設高度化含む)/400億円

北大阪流通センターなど物流施設の高度化と、沿線を中心とした多様な不動産ビジネスを推進します。



北大阪流通センター高度化施設の第1期開発イメージ(2020年4月完成予定)



不動産ビジネス推進のイメージ

■ 数値目標(連結ベース)

計画の最終年度にあたる2020年度の数値目標は以下のとおりです。

営業利益(※)	370億円
有利子負債残高/EBITDA倍率	7.5倍以下

※営業利益+受取配当金

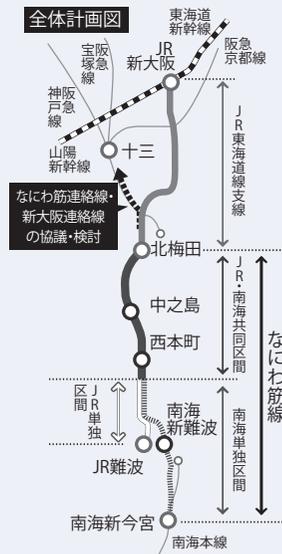
◆ なにわ筋線について

なにわ筋線は、空港アクセスの強化とともに、当社沿線と国土軸である新大阪や梅田地区を1つの路線で結ぶ関西の鉄道ネットワークの一翼を担う重要な意義を持っており、お客さまの利便性向上をはじめ当社沿線の価値向上に大きく寄与することが期待される路線です。

<なにわ筋線の計画概要>

整備区間	南海新今宮駅～(仮称)西本町駅～(仮称)北梅田駅 JR難波駅～(仮称)西本町駅～(仮称)北梅田駅
中間駅	(仮称)中之島駅 (仮称)西本町駅 (仮称)南海新難波駅
整備主体	関西高速鉄道
営業区間	当社：新今宮駅～(仮称)北梅田駅 JR西：JR難波駅～(仮称)北梅田駅

また、なにわ筋連絡線、新大阪連絡線については、2017年度に実施された国での調査結果を踏まえて、早期事業化を目指し、関係者での協議・検討を進めます。



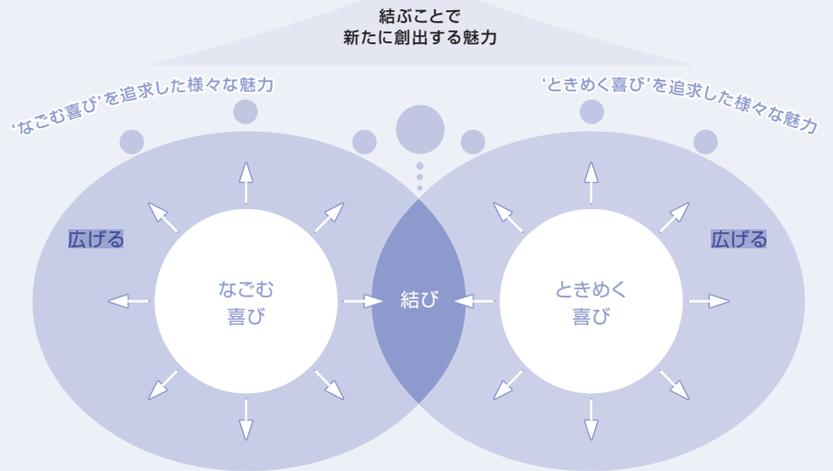
◆ ブランド価値向上への取組みについて

「南海グループ経営ビジョン2027」で掲げる「満足と感動の提供を通じて、選ばれる沿線、選ばれる企業グループとなる」の実現のため、南海グループのブランドイメージ向上に取り組みます。

グループ全従業員のベクトルを合わせ、「目指す南海ブランド(南海らしさ)」を日頃から意識して取り組むために、ブランドスローガン「'なんかいいね'があふれてる」を策定しました。まずは、従業員がそれぞれの業務の中で実現できるよう、ブランドの社内浸透活動を推進します。

ブランドスローガン

‘なんかいいね’があふれてる



ブランドスローガンに込めた思い

心がなごむときに感じる‘なんかいいね’。
心がときめくときに感じる‘なんかいいね’。
なごみ、ときめきを融合することで生まれる、新たな‘なんかいいね’。
‘なんかいいね’が、沿線に満ちている。次から次へと生まれてくる。

選ばれる沿線、選ばれる企業グループを目指して、
「なごみ、ときめく喜びを結び、広げる」ことで、
‘なんかいいね’をたくさんつくり出していきます。

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表の要旨

(2019年3月31日現在)

〈単位:百万円〉

科 目	金 額
(資産の部)	
流動資産	80,856
固定資産	837,528
資産合計	918,385
(負債の部)	
流動負債	177,951
固定負債	498,872
負債合計	676,823
(純資産の部)	
資本金	72,983
資本剰余金	28,105
利益剰余金	91,301
自己株式	△ 160
株主資本合計	192,230
その他有価証券評価差額金	7,143
土地再評価差額金	30,953
退職給付に係る調整累計額	529
その他の包括利益累計額合計	38,625
非支配株主持分	10,705
純資産合計	241,561
負債純資産合計	918,385

■ 連結損益計算書の要旨

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

〈単位:百万円〉

科 目	金 額
営業収益	227,424
営業費	199,678
営業利益	27,745
営業外収益	1,433
営業外費用	5,281
経常利益	23,898
特別利益	5,383
特別損失	13,758
税金等調整前当期純利益	15,522
法人税、住民税及び事業税	7,932
法人税等調整額	△ 5,249
当期純利益	12,840
非支配株主に帰属する当期純損失	△ 183
親会社株主に帰属する当期純利益	13,023

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

〈単位:百万円〉

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	38,729
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 45,219
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,632
現金及び現金同等物の増減額	2,143
現金及び現金同等物の期首残高	19,721
現金及び現金同等物の期末残高	21,864

■ 連結株主資本等変動計算書

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

〈単位:百万円〉

	株 主 資 本					その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	72,983	28,105	81,593	△ 146	182,535	8,638	31,037	△ 354	39,320	10,978	232,835
当期変動額											
剰余金の配当			△ 3,400		△ 3,400						△ 3,400
親会社株主に帰属する当期純利益			13,023		13,023						13,023
土地再評価差額金の取崩			85		85						85
自己株式の取得				△ 14	△ 14						△ 14
自己株式の処分		0		0	0						0
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		△ 0			△ 0						△ 0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△ 1,495	△ 83	883	△ 695	△ 273	△ 968
当期変動額合計	-	△ 0	9,708	△ 13	9,694	△ 1,495	△ 83	883	△ 695	△ 273	8,726
当期末残高	72,983	28,105	91,301	△ 160	192,230	7,143	30,953	529	38,625	10,705	241,561

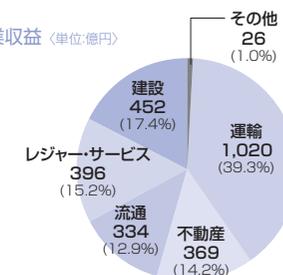
■ セグメント情報

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

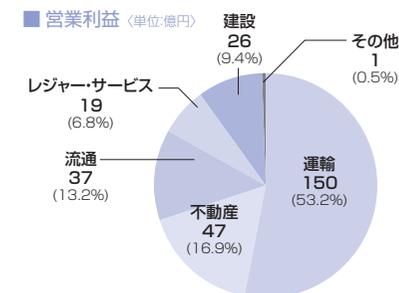
〈単位:百万円〉

	営業収益	営業利益
運輸業	102,051	15,033
不動産業	36,956	4,776
流通業	33,482	3,715
レジャー・サービス業	39,640	1,922
建設業	45,201	2,655
その他の事業	2,680	153
調整額	△ 32,587	△ 511
連結	227,424	27,745

■ 営業収益 (単位:億円)



■ 営業利益 (単位:億円)



連結経営成績の推移

CSR

南海グループのあらし

南海電鉄のあらし

鉄道事業

年譜ほか

南海グループのあらし

南海電鉄のあらし

鉄道事業

年譜ほか

連結経営成績の推移

〈単位:百万円〉

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期純利益
2009年度	185,848	20,767	12,006	9,916
2010年度	186,164	19,900	11,466	3,054
2011年度	181,869	18,294	11,067	5,686
2012年度	184,412	21,973	15,474	7,518
2013年度	197,495	23,062	16,899	9,615
2014年度	210,995	28,118	22,001	※17,467
2015年度	219,065	32,318	27,110	12,612
2016年度	221,690	31,840	27,111	16,452
2017年度	227,874	※33,971	※29,733	14,719
2018年度	227,424	27,745	23,898	13,023

※…それぞれの項目における過去最高額



安全性向上への取組み

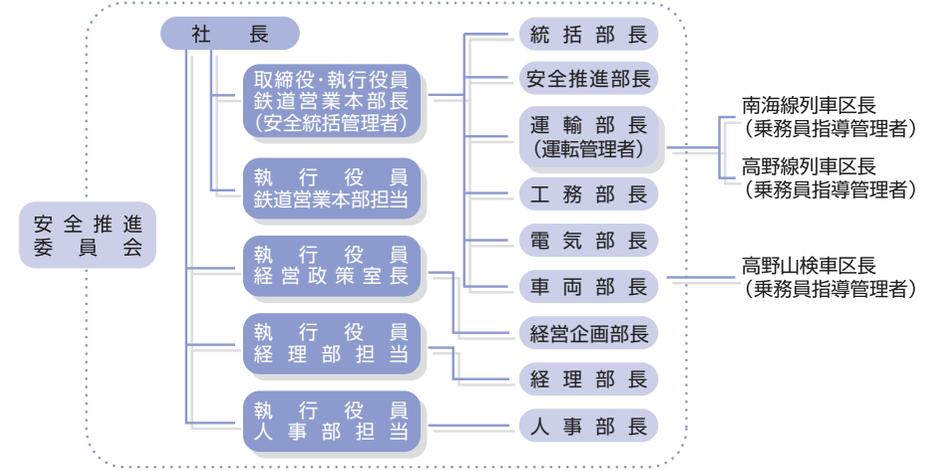
社会の信頼にこたえ、お客さまに最良のサービスを提供するため、当社では「安全」を最優先に取り組んでいます。「安全方針」を制定し、安全第一の意識をもって事業活動を行える体制の整備に努めるとともに、鉄道施設、車両、社員を総合的に活用することで、輸送の安全確保に努めています。

安全方針

1. 安全最優先を原則とし、協力一致して事故の防止に努めます。
2. 輸送の安全に関する法令、規程を遵守し、厳正、忠実に職務を遂行します。
3. 作業にあたり、必要な確認を励行し、最も安全と思われる取扱いを実行します。
4. 事故・災害が発生したときは、人命救助を最優先に考え行動し、すみやかに安全適切な処置をとります。
5. 安全管理体制を適正に運用し、不断の改善に努めます。

組織体制

(2019年6月21日現在)



安全のための教育・訓練・設備

安全性向上を図るためには、技術の継承をより確実なものとし、実践教育の充実を図ることが重要と考えています。鉄道営業本部の各部門では新入社員、中堅社員、熟練社員に対して計画的に技術・技能の向上を図るべく教育・指導を行っています。

さらに、毎年「事故復旧総合訓練」を実施し、負傷者の救出や避難誘導、損傷した施設や車両の復旧作業及び関係部署への通報連絡などの訓練を行い、異常時対応能力の向上を図っています。

※「安全対策設備」については72ページで紹介しています。



事故復旧総合訓練

環境理念

わたしたち南海グループは「地球環境保全」を企業の使命の1つと認識し、すべての事業活動を通じて環境への影響を常に配慮し、自然環境にやさしい社会づくりに向けて行動します。

■ 南海環境ビジョン2030

南海グループでは、地球環境に関する課題認識を発展させ、幅広いステークホルダーへの社会的責任を果たすことで当社グループの持続的成長に資することを主旨として、「南海環境ビジョン2030」を制定しました。同ビジョンは、あらゆる事業活動を通じて環境問題の解決に貢献していくことが企業価値向上につながるという認識のもと、中期環境計画と連動しています。

同ビジョンでは、環境問題の中でも、当社グループの事業活動に影響が大きい「地球温暖化」「循環型社会」「生物多様性」の3項目とこれらの基盤となる「環境マネジメントシステム」を環境課題ととらえ、2030年の目指すべき方向性からバックキャストにより、各年度の実行施策を策定しています。

また、環境ビジネスによる収益源の拡充ならびに自治体との連携により、事業価値のみならず沿線の環境価値の向上に貢献していきます。

環境課題	2030年度の方向性
1 地球温暖化の抑制	南海グループのCO ₂ 排出量26%削減(対2013年度比) 環境ビジネスによる企業価値の創造
2 循環型社会の実現	沿線におけるスマートシティの形成
3 生物多様性の保全	自然との共生社会の実現
4 環境マネジメントの深度化	環境推進体制の充実と環境情報開示の強化

■ ECOニストプログラム

当社では、ECOニストプログラムを導入しています。環境ボランティア活動などに参加した社員に付与されるECOニストポイントが年2ポイント以上で「ECOニスト」として認定し、認定証を授与します。2018年度は223人のECOニストが認定され、社員の環境意識が年々向上しています。



堺の森再生プロジェクト

■ CSR報告書

CSR報告書を発行しています。
当社のホームページからご覧いただけます。

URL
http://www.nankai.co.jp/company/environmental_protection/kankyou_report.html



「CSR報告書2018」表紙

コンプライアンスの取組み

■ 企業倫理規範の制定

企業倫理の確立を図り、コンプライアンス経営を維持・推進するため、2001年9月に「企業倫理規範」を制定しました。(企業倫理規範については表紙裏に掲載)

■ コンプライアンス取組み体制

各部(室)及びグループ会社にコンプライアンス担当者を設置し、定期的に情報交換、意見交換を実施しています。

■ 企業倫理ホットラインの設置

当社グループの全役職員を対象に、企業倫理・コンプライアンスに関する照会、疑問、相談、報告などを受け付ける窓口として2002年12月に創設しました。

■ コンプライアンスマニュアルの制定

企業倫理を確固たるものとするため、役員・社員一人ひとりの業務や行動指針を示す実践的なマニュアルとして2004年12月に制定、2006年4月にはグループ各社でも個別に制定しました。

■ コンプライアンス研修

階層別の研修や、社内及びグループ会社間の集合研修、継続的な教育によって、コンプライアンス意識の涵養を図っています。

リスクマネジメントの取組み

様々なリスクに対し適切に対応するため、リスクを組織横断的に管理する体制を構築し、事業にかかわるリスク情報を把握するとともに、優先的に対処すべきリスク項目を選定しています。そのうえで、各部(室)及びグループ会社において、リスクの回避または軽減のための「南海グループリスク対策計画」を策定し、進捗状況の確認や評価を行い、次年度計画へ反映し、PDCAサイクルを推進しています。

BCP(事業継続計画)

当社では、大規模地震をはじめとする緊急事態が発生しても、重要な事業を中断させず、または中断したとしても可能な限り短時間で復旧できるよう、事前に行うべき対策と行動要領等を定めた「BCP(事業継続計画)」を策定しています。また、BCPが確実に機能するための訓練を適宜実施しています。さらに、グループ会社においても順次BCPを策定しており、今後も展開に努めます。

ダイバーシティへの取組み

経営環境の変化に柔軟に対応し、持続的に成長していくためには、組織内の多様性を尊重し、積極的に活用していくことが不可欠であると考え、様々な切り口からダイバーシティの推進に努めています。

1. 女性のさらなる活躍推進に向け、ベースとなる女性社員の採用比率の向上や、活躍の場の拡充などを目標とする行動計画を策定し、様々な取組みを行っています。
2. 定年退職後の再雇用制度を導入し、原則として希望者全員を引き続き雇用しています。
3. 障がい者の雇用促進のため、特例子会社(株)南海ハートフルサービスを2005年2月に設立。清掃や郵便仕分けなどの業務を担っています。

沿線活性化の取組み

■ 地域交流

千代田工場で毎年「南海電車まつり」を開催し、ラピート車内見学会や子ども車掌体験などの各種イベントを通じて当社への理解を深めていただいています。

また、沿線の小学生などを対象とした車庫見学会、阪堺電気軌道「路面電車まつり」、スルッとKANSAI「バスまつり」などで沿線のお客さまとの交流の機会を設けています。



南海電車まつり

■ 沿線振興

1.南海コンサート

沿線を中心とした関西における音楽文化の向上などを目的として、天下茶屋に拠点を置く大阪フィルハーモニー交響楽団のコンサートを、当社協賛で定期的に開催し、64回の実績があります。



南海沿線文化セミナー

2.南海沿線文化セミナー

沿線にゆかりのある武将や偉人、名所や旧跡、地域に根ざした文化等を紹介し、沿線の魅力を発見していただくことを目的に、2008年度から定期的に開催しています。

3.スポーツ振興

沿線のスポーツ振興を目的に、Vリーグ所属の堺ブレイザーズと協働で、沿線の中学校男子バレーボール部に堺ブレイザーズの選手を派遣して行う直接指導やバレーボール大会などを2009年度から実施しています。



バレーボール大会

4.こうや花鉄道プロジェクト

高野山への道中、鉄道の魅力や旅行の楽しみを、地域とともに創出する取組みです。

〈これまでの取組み内容〉

- 展望デッキ付列車「天空」運行
- 全国登山鉄道%（パーミル）会への参画
- 高野下駅「南海思い出ミュージアム」
- 中古沢橋梁展望デッキ設置
- 地元ボランティア団体との協働による駅や車窓沿いへの花植え、植樹など



こうや花鉄道